

# 道徳ことはじめ



第1号

小金井市立東小学校 指導教諭 田上由紀子



道徳って何やっていいのかわからないなあ…。副読本や東京都からも資料集がくるけれど…。活用の仕方がわからない。

教科になるらしいけれど、今なかなか道徳の時間ができていない…。ついつい説教のような話をしてしまうこともあるし…。道徳授業地区公開講座の時は、本当に大変…。

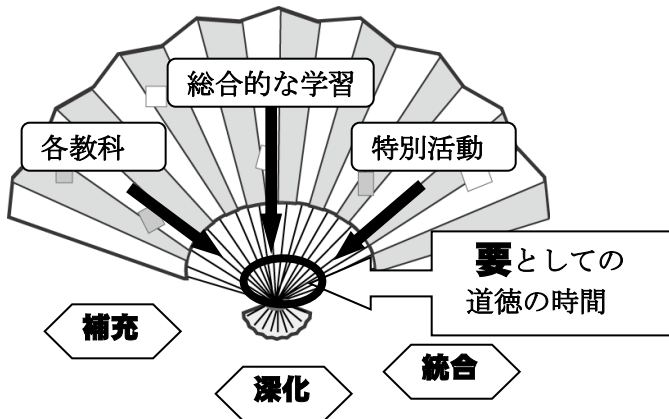


私も道徳を始めた頃は、「国語とどう違うの?」と思ったり、「主題名と価値項目というのは違うの?」などの悩みからのスタートでした。2018年からは、「特別な教科 道徳」となり、教科書に基づいての授業が行われます。道徳について一緒に少しずつ勉強していけたらと思います。



## 道徳の時間とは・・・

道徳の時間は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と密接な関連を図りながら、学習指導要領に示されている道徳的価値について、年間指導計画に基づいて指導する時間である。



児童は学校の教育活動全体を通じて、様々なところで道徳的価値に触れて生活をしている。道徳の時間は、それらを調和的に補充・深化・統合する時間である。

《例》

✕ 今度運動会があるから、信頼・友情の価値の指導を行う→これでは、左記の→が道徳の時間からの発信となり、みんなで協力して助け合わなくてはいけないという価値のおしつけになります。

○ 運動会を終えたあと、信頼・友情の価値の指導を行う。→自分の体験をもとに価値について深く児童は考えることができます。



道徳の時間の指導で、価値をしっかり理解させて、生活の中で価値が実現できる子供に頑張ってなってほしいのですが…。

## 道徳の時間に教師ができることは・・・

道徳の時間に子供の心に種をまくのが教師の仕事。やさしさの種、努力の種、協力の種。種はすぐに芽が出るわけではない、学校生活の中では芽が出ないかもしれない。

しかし、まかない種は生えないのだから、我々は道徳の時間にコツコツと子供の心に種をまこう。ひたすらよい種をまきつづけよう。10年後、20年後に芽が出ることもある。心を育てるといのはそういうことです。

玉川大学客員教授 後藤忠先生のお話より



道徳の時間をどう作ればいいのでしょうか？



## 1. まず、よい資料を選ぶ！

資料は道徳授業の命である。よい資料とは何か。それは、「ねらいに合っている」「分かりやすい」「興味・関心をもてる」「臨場感がある」資料のことを言う。教師の心にガツンと響き、教師が惚れ込んだ資料は間違いなくよい資料といえる。よい資料とはよい種のことである。

(玉川大学客員教授 後藤忠先生のお話より)

☆学校にある副読本やわたしたちの道徳、心あかるく、心しなやかに、心たくましくなどを何冊か読み、よい資料を選んでいきます。原作があれば、それを読んでもみると、資料理解が深まります。

## 2. 資料提示に命を懸ける！

(1) 資料はただ「読む」のではなく、心を込めて「語る」ように読む。

語 = 吾を言う

「語る」と「読む」では違いますね。

※読 = 言葉を売る

何回も何回も読んで自分のものにする

(2) 「間」と「余韻」を大切にす

じっくりと、子どもの心にしみわたるよう

(3) 子どもの表情を見ながら語る

(4) 効果的な「朗読」の手法を

(明星大学教育学部教育学科特任准教授 大原龍一先生のお話より)

☆何度も読むうちに最初に読んだ時とは違うところがたくさん見えてきます。授業で読む時に自分の自信にもなり、堂々と読むことができます。



## 3. 本時のねらいを鮮明に立てる！

本時のねらいは授業の出口である。ねらいが曖昧だと授業がぶれる。

ねらいは、資料の扱いとの関係に照らして具体的に立てる、このことが大切である。

(玉川大学客員教授 後藤忠先生のお話より)

☆道徳の学習指導要領の解説の第3章第2節のその道徳の価値項目の低学年から見ていくとわかりやすいです。学年が上がるにつれて、どうねらっていくのかもわかります。

## 4. 導入をしっかり行う！

価値への導入をしっかりと行うとぶれない授業ができます。(資料によっては資料への導入の方がいいのもあります。) 児童の体験やアンケートの結果などをもとに導入を行うこともできます。また、教師の説話を使うのも一つの手です。

2ヶ月1回程度、道徳ことはじめを発行していきます。普段の授業で生かしていただけるものがあれば嬉しいです。

# 道徳ことはじめ



第2号

小金井市立東小学校 指導教諭 田上由紀子



道徳の授業の展開が難しい。どうしていけばいいんでしょうか？

国語の読み取りのようになってしまったり、途中で、「あれ？ねらいからずれてしまっているなあ。」と困ってしまったり…。どうすればいいんだろう？



道徳の資料（新学習指導要領では、「教材」となるようです。）では、いくつもの道徳的価値がふくまれています。その授業のねらいとする道徳的価値を授業者がはっきり意識をして臨むことが大切です。



## 道徳の主題と主題名

### 道徳の主題とは…

授業者が授業で何をねらいとするか、その達成のためにどのように資料を活用するかのまとまりを示すもの。



主題は、ねらいとする道徳的価値とそれを達成するための資料によって構成される。

### 道徳の主題名は…

主題名は、ねらいとする道徳的価値と資料で構成した主題を端的に表すもの。

\*内容項目や資料名をそのままつけるのは好ましくない。

主題名は、児童がそれを一目見ただけで本時の学習内容が分かるものにする工夫が必要。

→児童が考える上での視点となり、授業がぶれにくくなる。

（月刊「道徳教育」明治図書 玉川大学客員教授 後藤忠先生のご指導から）



## ねらいを具体的に

1号でもねらいについては触れましたが、資料に絡め、具体的にねらいを立てる。

→例えば、「ロレンゾの友達」の資料で「友情・信頼」の内容項目で行う場合学習指導要領におけるねらいの中の「男女協力して助け合う。」のところは、この資料では扱いません。資料の中の中心となる場面から始めていくことで、ねらいとする価値により深くせまることができます。



## ねらいの語尾をよく吟味する

学校における道徳教育は、道徳性を養うことを目指して行われます。一方、道徳の時間（道徳科）では道徳的実践力を育成します。道徳的実践力とは、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するものです。これらは、道徳性の諸様相と言われる。（「道徳授業で大切なこと」赤堀博行文科省初等中等教育局教育教科調査官著から）

道徳的心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であり、 <b>道徳的行為への動機として強く作用するもの。</b>
道徳的判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力、人間として生きるための道徳的価値が大切なことを理解し、 <b>様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれているかを判断する力。</b> 的確な道徳的判断力をもつことにより、それぞれの場面において機に応じた道徳的行為が可能になる。
道徳的実践意欲	道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味するもの。 <b>道徳的心情や道徳的判断力を基盤とした道徳的価値を実現しようとする意志の働き。</b>
道徳的態度	道徳的実践意欲と同様に、道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向であり、 <b>道徳的心情や道徳的判断力に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。</b>

（「道徳授業で大切なこと」赤堀博行文科省初等中等教育局教育教科調査官著から）

赤堀先生の上記の著書においても、「**道徳的実践力とは、子どもの将来に生きて働く力であり、内面的な資質**です。1時間の道徳の時間の指導で子どもの変容を目指すということではなく、年間35時間（第1学年は34時間）、小学校段階では、209時間の指導を、その特質を踏まえて丹念に指導することによって、潜在的に、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであると言われる」と述べられています。

このようなことを踏まえていくと、道徳的心情は、あらゆる道徳性の基盤となります。道徳的心情が育っていないのに態度をねらってしまうということはなかなか難しいところがあります。よって、ねらいの語尾についてもよく吟味することが大切です。



## 資料分析をしっかりと行う

発問構成には資料分析が不可欠です。的を射た発問を作るためには欠かせません。発問は、経験や勘で作るのではなく、その根拠を明確にして作るものです。

資料の文章の各行の全てに1から通し番号を打ち、主人公の気持ちが微妙に変化するところで細かく場面を分けていきます。理由は、児童がピンポイントで考えられる方が漠然とした場面を考えるより考えやすく、話し合い活動もかみ合いやすくなるからです。話し合い活動も活発になります。そして、各場面における主人公の気持ちをすべて出し尽くします。これによって、予想される児童の反応を把握できます。そして最初に、**どの場面が一番本時のねらいにせまれるかを考え、中心発問場面として**いきます。

（月刊「道徳教育」明治図書 玉川大学客員教授 後藤忠先生のご指導から抜粋）

2ヶ月1回程度、道徳ことはじめを発行していきます。普段の授業で生かしていただけるものがあれば嬉しいです。

# 道徳ことはじめ



第3号

小金井市立東小学校 指導教諭 田上由紀子

今回のテーマは**道徳の教科化**についてです！

学校教育法施行規則の一部を改正する省令

## (1) 「特別の教科である道徳」

従来の道徳の時間を「特別の教科」と位置付けるため、学校教育法施行規則において、小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部の教育課程における「道徳」を「特別の教科である道徳」と規定する。

## (2) 施行期日

小学校及び特別支援学校小学部に関する改正規定は、平成30年4月1日から、中学校及び特別支援学校中学部に関する規定は平成31年4月1日から施行。

\*解説は7月に出ています。月刊道徳教育が入っている棚に、初等教育資料の別冊を置いてあります。そこに載っています。

\*解説編の総説から

今回の改正は、いじめの問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導法の工夫を図ることを示したものである。(中略)

発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものである。

## 改訂の経緯

多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善するようという中央教育審議会から「特別な教科道徳」において、目標や指導のねらいに即し、児童生徒の発達段階を踏まえた上で、対話や討論など言語活動を重視した指導、道徳的習慣や道徳的行為に関する指導や問題解決的な学習を重視した指導などを柔軟に取り入れることが重要であること。



いずれの指導方法例についても、柔軟に授業に生かすことが求められるが、その前提となることは、「特別な教科道徳」の特質を生かすということである。



「討論」…話し合っている双方が互いに自分の主張が正しく、対立する側の主張は間違っていると主張すること

「議論」…ある目的を達成するために互いに意見を交わす中から、良い考えなどを発見しようとする対話



本校では、話し合い活動や座席の形にしても、友達の意見をしっかり聞いたり、伝えりしながら議論し、自己の生き方を道徳的価値に結び付けて考えさせてきました。

## 道徳教育の目標

「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共により、よく生きるための基盤となる道徳性を育てる。」これは学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育

「特別の教科 道徳」の目標

「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ①、物事を多面的・多角的に考え②、自己の生き方についての考えを深める③学習」を通して「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」

#### \*道徳的諸価値（内容項目）についての理解

- ① 内容項目を人間としてよりよく生きる上での大切なことと理解する。
- ② 道徳的価値は大切だが、なかなか実現できない人間の弱さがあることを理解する。
- ③ 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方や考え方は多様であるという前提で理解する。

児童が道徳的価値について主体的に考えることができるようにするために、教師は導入から終末まで一貫して主題に添った授業をしていくことが大切である。



今さかんに、「問題解決的な学習」「体験的な学習」を取り入れて…と言われていますが、道徳ではどのような学習になるのでしょうか。

○あくまでもこれらは一手法です。解説の中でも、「教材に応じて効果的な学習を設定することが大切」と書いてある。「いつもそうしなさい。」とされているわけではない。

○解説「問題解決的な学習の工夫」には

道徳科における問題解決学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の考え方や感じ方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考え…。

あくまでも自分の課題に対して！（みんなではありません。）道徳は自己の生き方を考えます

- ・友達との話し合いを通して、道徳的価値のよさや難しさを確かめる学習→教師の発問の工夫  
ペアや少人数グループなどでの学習も有効→こうした学習方法を導入することを「目的」にしないように
- ・主題に対する児童の興味や関心を高める導入の工夫
- ・他者の考えと比べ自分の考えを深める展開の工夫
- ・主題を自分との関わりで捉え自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望がもてるような終末の工夫

\*あくまでも児童一人一人が自分自身の課題に対する考えを深めることが大切

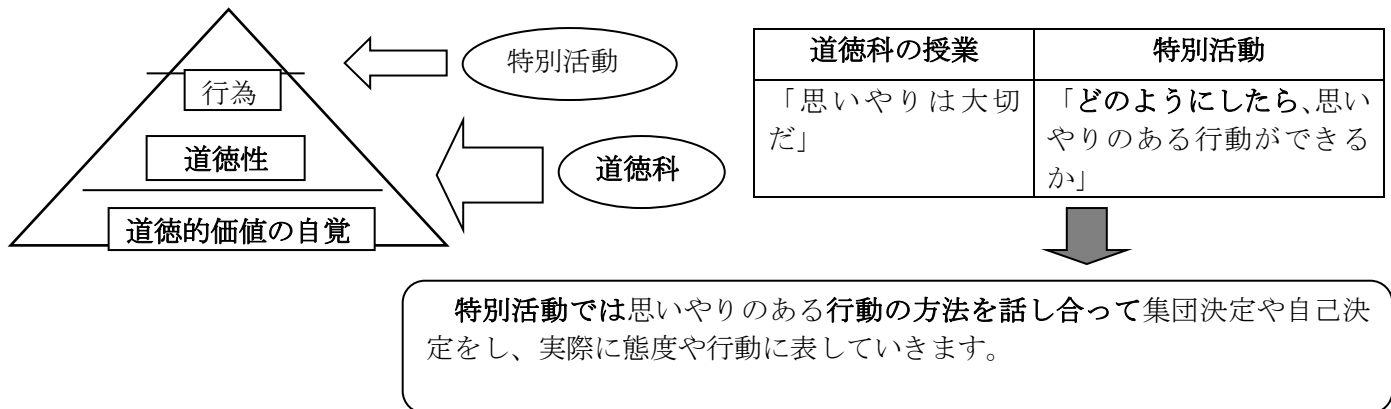
授業では、自分の気持ちや考えを発表することだけでなく、時間を確保してじっくりと自己を見つめて書くことも有効であり、指導法の工夫が不可欠！



○解説「体験的な学習等を取り入れる工夫」には

単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要。

・問題場面によっては、役割演技や動作化を取り入れた学習も有効。ロールプレイやスキルトレーニングに  
 特別活動の特質と道徳科の特質を混合せず、しっかり生かしていくことが大切！  
 ならないように



\* 勤務校小金井市立東小学校では、3年間玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授後藤忠先生のご指導で、しっかり道徳科（道徳の時間）の基礎基本を学び、道徳科（道徳の時間）の特質を生かして授業実践を行い、先月研究発表をさせていただきました。その実践が研究紀要に載っておりますので、どうぞご覧ください。

# 道徳ことはじめ



第4号

小金井市立東小学校 指導教諭 田上由紀子

今回のテーマは、①「**席を譲るという行為から見えるもの**」についてです！

先日、4・6年生のたてわり活動で高尾山に行きました。40分近く電車に乗っていました。帰りのバスでは、6年生が席を4年生に譲り、へトへトになりながらも6年生は立っていました。中には、立ちながら寝ている子もいました。この光景は、今年の6年生に限ったことでなく、毎年見られる光景です。登る時は、4年生のリュックを何個も持って登っていた子もいます。

これは、先生方の指示でやっていることではありません。自分たちが4年生の時に、6年生にやってもらったことを覚えていて、「あの時、大変な思いをしている中助けてくれた6年生のようにになりたい。」と一人一人が思っているからです。「6年生だから、4年生のリュックを持たなくてはいけない。」「6年生は、席を譲らないといけなから。」「先生にそうしないと叱られるから。」という義務感でやっている行為ではありません。毎年6年生がこのように義務感ではなく、「心」でこういう行動をしているからこそ、「ぼくたちも6年生になったら、4年生のために頑張るぞ!」と思うのでしょうか。まさしく、教育活動全般で行う道徳教育そのものです。

その帰りの電車での出来事です。4年生の女の子2人が、座席に座っていました。だんだん電車が混んできて、お客さんが乗ってきました。席を譲るように声をかけようかと私が迷っている間に、その2人はすっと立って、入って来たご婦人に、「ここに座ってください。」とはっきりした声で声をかけていました。しかも、とってもいい笑顔でした。その笑顔から、この2人も、「席を譲らなければならない」ではなく、「席を譲らずにはいられない。」という気持ちが強かったと感じました。

この新聞記事は、2016年5月19日(木)読売新聞に掲載されたものです。この小学4年生の女の子も、「乗ってくる時、両手でおなかを触っていて、つらそうだったから。」とさっと譲った理由を言っています。

他のエピソードを読んでも、心で動いているのが分かります。

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」)

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をそだてる。

上記のように、今までの学習指導要領と「道徳的な判断力、心情」の部分の順序が変わっていることから、「特別の教科 道徳」においては、「心情よりも判断力を養わなくてはいけません。」という風潮があります。しかし、改訂学習指導要領の道徳編の解説には、「道徳諸様相には、特に序列や段階があるわけではない。」と書かれてあります。また、道徳的心情については、「道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるとも言える。それは、道徳的行為への動機として強く作用するものである。」とあります。このように、人間が道徳的行為を行う時に重要であると言えます。順序が変わったからと言って、心情を育てることを疎かにしていいということではありません。

## 天使のような孫娘に見守られ

最近、自分の写真を見るたび、目がとても細いことが気になっている。「この目、一の手みたくて変よね」。小学4年の孫娘に写真を見せると、「おばあちゃん目、木でできたお人形と同じでかわいい。」「それ

て素早く席を立ち、笑顔を見せた。帰りの混雑した車内でも、妊婦さんにさっと席を譲った。私はすぐに妊婦だと分からなかった。後で「まだおなかが目立っていないの?」と聞くと、「乗ってくる時、

て、つらそうだったから」と言っていた。孫は、歩くことが不自由な私のこと、いろいろな気遣ってくれる。私はこの子を見守り保たれているのは私のほうなのかもしれない。天使のような孫に。

(神奈川県小田原市・大木敦子 66)



## テーマ②は「**役割演技**」についてです！

第4章 第2節 道徳科の指導 **3** 学習指導の多様な展開 (4) 道徳科に生かす指導の工夫

オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫

児童が表現する活動の方法としては、発表したり書いたりすることのほかに、**児童に特定の役割を与えて即興的に演技をする役割演技の工夫**、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫などがよく試みられる。

【改訂学習指導要領解説 道徳編】から】

まず、役割演技と動作化の違いをしっかりと理解することが大切です。

### 役割演技は・・・

特定の場面・役割の中で、自発的・即興的に演技をするものです。相手の言動に対してすぐさま反応をしなくてははいけません。したがって、演技はどうしても日常生活で繰り返されている自己の体験に頼るか、今までに培われてきた価値観に頼るしかありません。一般論ではなく、児童は本音を語ることになるのです。まさに、役割演技とは、演技を通して「自らを見つめる」「自らに問いかける」ことのできる指導法です。

役割演技を取り入れる際は、以下のことを考慮して行います。

- (1) 場面は具体的に示す。
- (2) 役割を明確にする。
- (3) 役割交代を行う。 →これを忘れないようにしましょう！

場面や条件設定はなるべく具体的に簡潔に示さなくてははいけません。複雑な場面状況や条件設定では、演じる場面の共通理解が図れず、演技者の即興的・自発的な表現活動ができません。

また、役割を交代することで、相手の立場や価値観を知る手がかりをつかめます。役割演技は、自ら演じたり、友達の演技を観察したりすることにより、これまでの自分を振り返り、自分自身の価値観を自覚することができます。

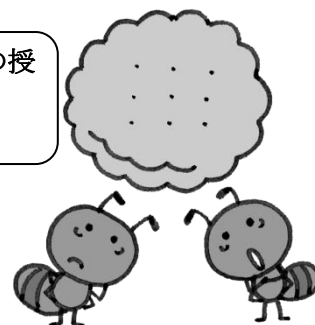
### 動作化とは・・・

自分自身が資料の登場人物がした動作をまねて行うことです。道徳的価値にそって登場人物のとった行動を、心をこめてなぞります。そうすることで、登場人物の思いを自ら体験することができ、道徳的心情が養われていきます。

【小金井市立東小学校 H27 年度研究発表冊子より】

役割演技は、平板な授業の打開策として、授業者が役割演技のねらいを明確にもっていない場合は、授業のねらいから外れてしまいます。授業者は、役割演技を通して児童に何を考えさせたいのかを、明確にしておく必要があります。

今年も、2～3ヶ月1回程度、道徳ことはじめを発行していきます。普段の授業で生かしていただけるものがあれば嬉しいです。



# 道徳ことはじめ



第5号

小金井市立東小学校 指導教諭

田上由紀子

今回のテーマは、「**考える道徳**」についてです！

改正小学校学習指導要領は、平成27年4月1日から移行措置として、その一部又は全部を実施することが可能となり、平成30年4月1日から実施になっています。実施まで2年を切った現在、

「特別の教科 道徳」に向けて、いろいろな情報が飛び交い、**不安に思っている先生方も多い**ようです。



改正小学校学習指導要領「特別の教科」解説編では、第1章総説の改訂の経緯の中で、「道徳に係る教育課程の改善について」の答申を受けてのことが書かれてあります。

我が国の学校教育において道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきた。これまで、学校や児童の実態などに基づき道徳教育の重点目標を設定し充実した指導を重ね、確固たる成果を上げている学校がある一方で、例えば、歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科に比べて軽んじられていること、『読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど、多くの課題が指摘されている。道徳教育は、児童の人格の基盤となる道徳性を養う重要な役割があることに鑑みれば、これらの実態も真摯に受け止めつつ、その改善・充実に取り組んでいく必要がある。



最近、未履修の問題がよく新聞に載るけれど、道徳も未履修と言われてもおかしくないと思うことも…。お説教の時間になんか変わったり、ちょっとテレビを見せたり、副読本を読んで終わったりしている。つい、おろそかになってしまっているなあ。

こんなふうに思っている先生たくさんいる先生が、たくさんいるのではないかと思います。今回の改正では、まずは、今までつい他教科に比べて軽んじていた「道徳の時間をしっかりやってみよう。」というのがスタートだということです。今までも、ここにも書いてあるように確固たる成果を上げている学校や先生もたくさんいらっしゃると思います。その先生方から言わせれば、

読み物の登場人物の心情を追って理解させているわけではない。道徳で使う資料(教材)は児童の心を映す鏡です。登場人物の心情を考えさせる中で、児童は自分の思いと重ねて考えているのです。要はねらいとする道徳的価値の内容を一人一人に考えさせているのです。



という意見も出てくるでしょう。でも、なかなか難しいのが現実です。一生懸命に資料提示を工夫したり発問を吟味したり、教材研究を重ねていらっしゃると思います。だからこそ、年間35時間(1年生は34時間)しかない道徳の時間の中で実践をし、児童と共に考えていくことが大切です。

今まで道徳を研究してきた学校、また、道徳をコツコツと授業をなさってきた先生たちは、今までも、1時間の授業の中で、児童にねらいとする道徳的価値について考えさせてきたと思います。「特別の教科 道徳」となってからも、今まで通りに児童が深く考えることができるように工夫されて

今回の改正は、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なもととする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどを示したものである。このことにより、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との答申を踏まえ、**発達の段階 に応じ、**

**答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う**「考える道

いじめの問題は、道徳の時間を1時間やったからと解決しません。道徳の時間ももちろん大切です。しかし、それだけでは解決しません。学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の中で心を育てていくことが大切です。

いじめが起こる背景には、様々な問題があります。誰もがいついじめられる側になるか、いじめられる側になるか、傍観者になるか分かりません。「こうすればいじめは起きません。」などという方法論をみんなで話し合っても、それは一時的なものであって解決にはなりません。道徳という「問題解決的な学習」を他の教科のように考えてはいけません。道徳はあくまでも、「自己をみつめ」「自己の生き方について考える」時間です。友達の意見を聞きながら、「そういう気持ちも分かるなあ。」

「僕は、そこまでは思えないなあ。」など自分と対話をしながら、自分なりに今の自分の見つめることが大切です。答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合って考えていこうとすることにつながります。「どうすればよかったのでしょうか。」と、方法論だけを問うような発問だけで進めると薄っぺらな考えだけで終わってしまう可能性もあるので、発問には留意していくことが大切だと思います。



議論できる子と議論が苦手な子もいます。議論が苦手な子は道徳の時間が嫌いになってしまわないか心配です。



「議論する道徳」は、討論するのとは違います。今まで行ってきた話合いをさらに深めていくと考えた方がいいと思います。「多様な価値観」を話合いの中で出していくのに、「討論」をしてしまっただけでは「特定の価値観」の押し付けになりかねません。意見を言わない子が考えていないというのは間違いです。じっと友達の意見を聞きながら、じっくり自分と向き合っている児童もいます。「考えている」＝「発言する」ではありません。議論が苦手な子でも、つい発言したくなるような発問をしたり、温かい対話的な話合いができたりすれば、どんな児童でも安心して自分の考えを発表できると思います。そのためには、基盤となる学級経営と吟味された発問が大切になってくると思います。



では、「考える道徳」にするには、どうすればいいのでしょうか？

- ①主題名とねらいをしっかりと！…ねらいとする道徳的価値について授業者なりの哲学をもって考える。
- ②よい資料（教材）を選択し、資料分析をし、的確な発問を考える…資料（教材）は、道徳授業の「命」
- ③資料（教材）提示に命を懸ける…資料（教材）提示を児童の心に響かせるように工夫をする。
- ④発問したら、考える時間を児童に与える…沈黙の時間こそ、児童がしっかりと自分を見つめて考える時間。
- ⑤児童に「聞く」姿勢をもたせる…話合いは、「聞き合い」であること。「言い合い」ではありません。
- ⑥展開後段を「主題」に沿った学習課題とする…つい時間がなくなりがちだが、自己をみつめるのに大切。

# 道徳ことはじめ



第6号

小金井市立東小学校 指導教諭

田上由紀子

今回のテーマは、「**アクティブラーニング**」についてです！

最近、どんどん新しい言葉が出てきて、さっぱり分からないわ…。言葉だけが一人歩きしている気がするわ…。分からないのは、私だけかしら？



そんなことはありません。分かっている人もいれば、まだまだよく分からない人も多くいると思います。新しい言葉は、新鮮で影響力がありますが、しっかりその言葉の意味を理解していかないと、大事な本質を見失ってしまいます。ちょっとここで、アクティブラーニングについて考えてみましょう。

文科省の用語集では、以下のように書かれてあります。

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

いろいろな方法があるということです。小学校においては、もうすでにやっていることです。

\* 能動的とは…自分から他へ働きかけること ←自分から進んでという点では、自発的と同じように感じるが、他へ働きかけるというのが「能動的」

この「アクティブラーニング」という言葉は、日本では、大学教育から使われ始めたものです。

## では、小学校では???

文部科学大臣は、平成26年11月20日に中央教育審議会に対して、次期学習指導要領に関して検討を行うように諮問し、諮問文「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」2)では、「そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。」とあります。

アクティブラーニングの視点は、①対話的②主体的で③深い学びの3つです。



道徳は、平成30年度から、「特別の教科 道徳」としてスタートしますが、道徳ではどのようにやっていくことがアクティブラーニングになるのでしょうか？

道徳の時間（道徳科）の特質をふまえた授業をしっかりとやっていくことがこの3つの視点のためには不可欠です。新しい言葉に感わされ、何か新しいことをしなくてはいけないとか、方法論のみにはしてしまうと、「深い学び」にはなりません。





「道徳の特質」とは何ですか？

### 【道徳の時間（道徳科）の特質とは…】

- ① 計画的・発展的に指導する時間
  - ・・・今クラスでこんなトラブルがあったから、道徳でどうにか解決しようという時間ではないということです。
- ②学校の教育活動全体で行う道徳教育を補充・深化・統合する時間
  - ・・・道徳の時間（道徳科）は、道徳教育の「要」の時間です。道徳教育の中で育まれたものを土台として深めていく時間です。
- ③自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める時間
  - ・・・自己を自分で見つめ、自己の生き方について教材（資料）や友達の意見から考えを深める時間です。ここが**特にアクティブラーニングの3つの視点そのもの**が入っています。
- ④道徳性を育てる時間
  - ・・・道徳性を育てる時間であって、道徳的行為を実際に行ったり、体験したりする時間ではありません。

自己を見つめさせるためには・・・

**価値理解** 内容項目は人間がよりよく生きる上で大切なことだと理解する。

**人間理解** 道徳的価値は大切であってもなかなか実現できない弱さが人間にあること理解する。

**他者理解** 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方は同じではない、人それぞれ多様であることを前提として理解する。

この3つの道徳的価値の理解を図るには、児童一人一人がこれらの理解を自分との関わりで捉えることが重要です。



まず、しっかり児童の心に響く教材（資料）を選ぶことが大切です。人間は、目の前に起こる事象について、心に響いたものには無関心ではいれなくなります。自然と自分にあてはめて考えているものです。

そのためには、前号にも載せましたが、下記のことを授業の中で大切にしていけることが重要です。

- ①主題名とねらいをしっかり！…ねらいとする道徳的価値について授業者なりの哲学をもって考える。
- ②よい資料（教材）を選択し、資料分析をし、的確な発問を考える…資料（教材）は、道徳授業の「命」
- ③資料（教材）提示に命を懸ける…資料（教材）提示を児童の心に響かせるように工夫をする。
- ④発問したら、考える時間を児童に与える…沈黙の時間こそ、児童が自分を見つめて考える時間。
- ⑤児童に「聞く」姿勢をもたせる…話し合いは、「聞き合い」であること。「言い合い」ではありません。

資料にもよりますが、導入では、価値への導入をしっかり行っていくことで児童はその時間に考えることが明確になり、自己を見つめやすくなります。

展開前段で「自分ならどうしますか？」という発問をする時には、かなりの配慮を要します。自分の発言が、クラスの話し合いの中で議論になり、否定された場合、その児童が心を閉ざしてしまう危険性もあります。道徳の時間は、「よいと分かっているにもかかわらずできない人間の弱さにも気づき、そこをよりよく生きるためにどうするべきか。」と自分の心と対話する時間です。多様な考え方や感じ方に触れ、児童一人一人が自己の生き方について考えを深めていけるようにすることが大切です。

# 道徳ことはじめ



第7号

小金井市立東小学校 指導教諭 田上由紀子

今回のテーマは、「**道徳って難しい?**」についてです!

いよいよ平成29年になり、「特別の教科 道徳」の完全実施(小学校平成30年度、中学校平成31年度)も目前!!  
どうしよう……。道徳は難しくて分からないわ。不安がいっぱい。



つい、難しいと感じてしまう  
ことで、やらないことが多い。



無理もないです!  
週に1時間の学習になります。年間35時間(1年生は34時間)しか、ありません。国語や算数などは学年にもよりますが、100時間を超えます。それでも、「国語や算数は簡単だ!」とはなりませんね。  
また、教科書も今はありません。答えが1つではない道徳では、多様な意見を出させ、話し合いをしながらねらいにせまっていくので、予想以外の発言が出てくると困ってしまうことは多



まだまだ分かっていないのに、考える道徳、議論する道徳、問題解決的な学習、体験的な学習など  
次から次へ……。ついていけない。



ここで、重要なのは、「何を」「何のために」ということが大切になってきます。  
ここを見失ってしまうと、「ただ、やっているだけ」の授業になり、心を育てる時間ではなくなり、目的があいまいな時間になってしまう危険があります。

【考える道徳とは…】

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的  
判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 (「特別の教科 道徳」の「第1 目標」から)

自己を見つめさせ、自分の生き方について考えさせる



POINT!

「道徳的な課題」を児童一人一人が自分自身の問題として考え向き合うように  
する。そして「教材(資料)は自己を見つめるための鏡」として使います!

(何を) (何のために)

児童の経験や体験は、一人一人違います。したがって、道徳の時間にねらいである道徳的諸価値について皆が共通に考え合うには、同じ教材(資料)という土俵が必要になります。また、同時に教材は児童の心を映し出す鏡となり、児童は教材の主人公などに自我関与をしながら、自分自身の問題を考えているわけです。

### 【議論する道徳とは…】



「物事を多面的・多角的に考えるために」「話し合いを」します！

(何のために) (何を)

物事を多面的に多角的に考えるには、児童一人ひとりの多様な考えが必要となります。多様な意見をださせるためには、安心して意見を出させる環境(学級経営)が必要になります。また、「議論」が「討論」になってしまえば、せっかく児童が発言した意見をつぶし合うようなことになったり、影響力の強い子だけの意見で話し合いが進んだりすることになれば、多様な意見は出にくくなります。友達の意見を認め合いながら対話的に話合えるようにすることに留意する必要があります。



ここで、確認です！！

問題解決的な学習も、体験的な学習も、道徳の指導法の中の1つです！  
どちらも「的」という言葉が入っていることを忘れてはいけません。「～のような」という意味です。

### 【問題解決的な学習とは…】

道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の考え方や感じ方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら、課題解決に向けて話し合うことである。  
(「特別の教科 道徳」 解説編より)

ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめていく中で、「分かっているけどできない」「そうしたんだけどできない」という人間の弱さがあり、実現するには難しい問題について一人一人が考えていくことが大事になってきます。それだけに以下のことをよく理解しておく必要があります。

「問題解決的な学習をするために」 「児童の発達の段階や特性等を考慮することを理解して行う」  
「指導のねらいに即しているかを考える」  
「道徳科の特質を生かすことに効果があると判断した場合に限られてくることを理解しておくこと」

(何のため)

(何を)

\*そして、発問の工夫がもちろん大切になってきます。安易に「なぜ」「どうして」を使えば、問題解決的な学習であるということではありません。あくまでも自己を見つめ、一人一人の道徳的価値に対することに対して考えるということですから、一番大切なのは、しっかり「主題について自己を見つめさせて考えさせる」ことが大切です。

単に体験的行為や活動をそのものを目的として行うのではなく、授業の中に取り入れ、体験的な行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的な価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要である。  
(「特別の教科 道徳」 解説編より)

などについて考えを深めることが大切であることを忘れないようにしましょう。



「難しいから、やらない」では、難しいままになってしまいます。どの教科においても深めれば深めるほど、難しさを感じると同時に楽しさも出てきます。まずは、やってみて、何が問題なのか考えていくことが大切です。  
「何のために」どのような指導法でいけばよいのかは、児童の実態と教材によっても違ってきます。「学びの主体は子供自身」ということを頭に入れてやってみましょう。



# 道徳ことはじめ



第8号

小金井市立東小学校 指導教諭

田上由紀子

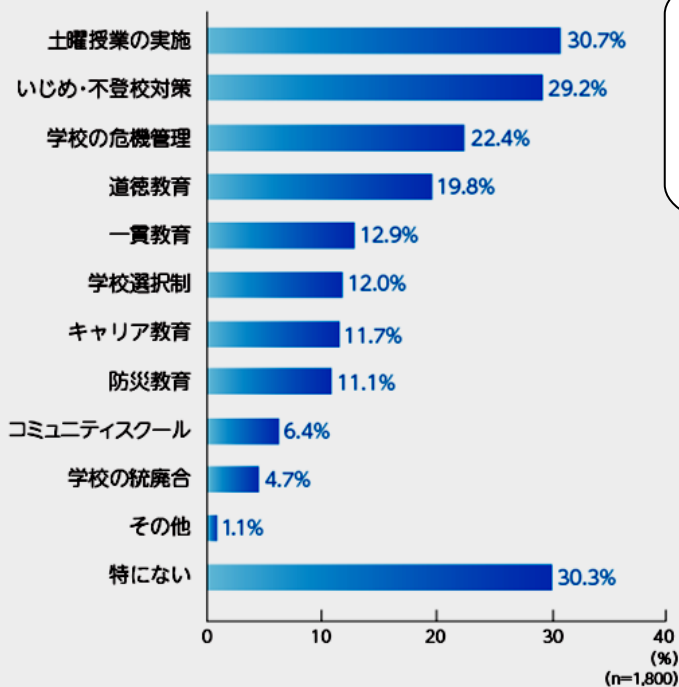
今回のテーマの①は、「**道徳に対する保護者の関心**」についてです！

いよいよ、30年度から、「特別の教科 道徳」として、本格的にスタートしますが、保護者はどのくらい関心があるのかしら？



道徳授業地区公開講座には、どのくらい保護者の方は参加していますか？学校によって差はあるかと思いますが、本校では、授業参観だけでなく、公開講座の参加も増えてきています。

カンコー学生服のサイトで下記のような結果が出ています。(2015年度)



【図2】 これからの学校教育の政策・動向で特に関心のあることは、どのようなことですか？（複数回答）

今回の改正は、いじめの問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点から内容の改善をしているので、保護者の関心はだんだん増えてくると思われます。



学校だけが道徳教育を充実させていっても、その場限りになってしまいます。学校で行っている道徳教育を家庭にもどんどん発信していくことが大切になってくると思われます。

学級通信などで授業の様子をお知らせしたり、学年だよりにその月にやる道徳の資料の概略を載せたりしておくのもいいかなと思います。

今回のテーマの②は「**地域教材を作ってみませんか**」についてです！



地域教材を使って、道徳で「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」（郷土愛）の内容項目で授業をしてみたいかですか。

児童の身近なものを資料として使うことにより、児童は考えやすくなり、考えを深めることができたりします。私は学区内の和菓子屋さんの方と何気ない会話の中から、「こ

れ、使える！」と思って、取材をして作りました。作ったのを見ていただき、了承を得て、授業をしました。

今回のテーマの③は「**おすすめ資料**」についてです！



「おすすめの資料は、ありませんか？」と聞かれることがあります。下記のような資料を紹介したいと思います。もしよかったら、参考にしてください。

#### 【低学年】

- ・かぼちゃのつる A【節度、節制】
- ・きつねとぶどう C【家族愛、家庭生活の充実】
- ・ゆっきとやっち B【友情、信頼】
- ・ハムスターの赤ちゃん D【生命の尊さ】
- ・にわのことり B【友情、信頼】
- ・がんばれ車椅子のうさぎ びよんた D【自然愛護】
- ・金色のクレヨン A【正直、誠実】
- ・およげないりすさん B【友情、信頼】
- ・ころろはっば B【友情、信頼】
- ・ぽんたとかんた A【善悪の判断、自律、自由と責任】
- ・はしのうえのおおかみ B【親切、思いやり】
- ・グミの木とことり B【親切、思いやり】
- ・黄色いベンチ C【規則の尊重】
- ・こぐまのラッパ A【希望と勇気、努力と強い意志】

#### 【中学年】

- ・たまちゃん、だいすき B【友情、信頼】
- ・窓ガラスと魚 A【正直、誠実】
- ・新次の将棋 A【正直、誠実】
- ・雨のバス停留所で C【規則の尊重】
- ・ひきがえるとロバ D【生命の尊さ】
- ・花さき山 D【感動、畏敬の念】
- ・絵はがきと切手 B【友情、信頼】
- ・よわむし太郎【希望と勇気、努力と強い意志】
- ・ことばのまほう B【礼儀】
- ・いのりの手 B【友情、信頼】
- ・貝がら B【友情、信頼】
- ・人間愛の金メダル C【生命の尊さ】
- ・木の中にバットが見える C【勤労】
- ・いのちの祭り D【生命の尊さ】
- ・リフティング100回 A【個性の伸長】
- ・ぼくの生まれた日 C【家族愛、家庭生活の充実】

#### 【高学年】

- ・崩れ落ちた段ボール箱 B【親切、思いやり】
- ・銀のしょく台 B【相互理解、寛容】
- ・友の肖像画 B【友情、信頼】
- ・どこかでだれかが見ていてくれる C【集団生活の充実】
- ・手品師 A【正直、誠実】
- ・先着順採用 C【公正、公平、社会正義】
- ・ぼくのお姉さん C【家族愛、家庭生活の充実】
- ・ぼくの名前よんで C【家族愛、家庭生活の充実】
- ・青の洞門 B【相互理解、寛容】
- ・見送られた二十球 A【正直、誠実】
- ・ほんとうのことだから A【善悪の判断、自律、自由と責任】
- ・襟裳岬の春 C【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
- ・うばわれた自由 A【善悪の判断、自律、自由と責任】
- ・江戸しぐさ B【礼儀】

ないた赤おに B【友情、信頼】は、どの学年でも使えます。

上記は、読み物資料です。映像資料では、NHK「道徳ドキュメント」などで探していただくと結構いいものがあります。6年生におすすめなのは、「あやちゃんの卒業式」B【友情、信頼】です。



他にも、絵本、新聞記事など、資料（教材）となるものがたくさんあります。ぜひ、「これは！」と思ったものでやってみてくださいね。

# 道徳ことはじめ



第9号

小金井市立東小学校 指導教諭

田上由紀子

今回のテーマ①は、「**評価をどうするの？**」についてです！

いよいよ、30年度から、「**特別の教科 道徳**」は本格的にスタートしますが、「**評価はどうしたらいいんでしょうか？**」



こういう質問をたくさん受けるようになりました。

とにかく、「**評価**」するには、「**授業をしっかりとる必要性**」があります。

道徳科の評価は、児童の人格形成に大きくかかわってきます。評価の方法や記述のことを心配ですが、まず、評価をするのに値する授業をしていくことが大切です。

まず、「**評価**」とは何か、そして、「**道徳教育における評価**」とは何かを考えていきましょう。

「**教育における評価は常に指導に生かされ、結果的に児童の成長につながるものでなければならない**」というのが **教育のすべてに共通する評価の意義**です。



**道徳教育における評価の意義**

・・・ 児童の人格形成にかかわる重要な評価

道徳教育の評価は、教師が児童を共感的に理解し、児童の人格形成を見守り、児童自身が自己のよりよい生き方を求めていく努力を認め、それを勇気付け、伸ばすところにその意義がある。



「易しく、深く、面白い 道徳科学習指導案作成入門」(後藤忠著) P.20 より引用

では、「**道徳科の評価の目的**」は・・・？

授業のねらいに即して、児童の「学習状況」や「成長の様子」を把握し、それを児童に確かめさせたり、それをもとに教師自らの指導を評価したりして、結果的に指導方法の改善に努めることが目的である。

前掲書より引用



以上のようなことを考えると、今まで以上に、担任が、児童の実態をしっかりと把握したうえで、授業のねらいを立て、児童の実態に合った教材を選び、授業を展開することが重要になってくると考えます。



道徳科における児童の実態把握となると、いろいろ難しいと思うのですが・・・。

「教育は児童理解に始まり、児童理解に終わる」…児童理解に終わりはない  
児童理解は目に見える表面的な理解にとどまるものではありません。(中略)  
とりわけ道徳教育は児童の人間的な成長に関与し、それを伸長するために行う重要な教育です。したがって、児童理解には極めて慎重で謙虚な態度が求められます。



前掲書P.6より引用

心の中は、見えません。また、自分の心の中を見せないこともできるし、自分の心をごまかして繕うこともできます。また、自分ではそう思っていないくても、先生が期待しているような答えを言うこともあります。また、いろいろな思いがあっても、人前で話すことや、自分の思いを言葉に表すのが苦手で、なかなか人に伝えるのも難しい児童もいます。

よって、道徳科の授業の中で、「たくさん発言している」＝「よく考えている」とも一概には言えないし、「挙手をぜんぜんしない」＝「何も考えていない」とも言えないのです。



表面的な児童の態度で、教師が勝手に早合点して、児童を理解したと思っ  
てはだめですね。一人一人の児童の姿を道徳科の時間だけで評価するのでは  
なく、常によく実態を把握して理解することが大切ですね。

ですから、評価に当たっては、評価のための評価にならないことに留意し、計画性をもって無理のない評価をコツコツと重ね、**評価材を蓄積していくことが大事**です。

#### ◇評価の基本方針

- ・数値による評価は行わず、記述式であること。
- ・相対評価はせず、個人内評価であること。
- ・個々の内容項目ごとの評価ではないこと。

#### ◇評価の観点(「学習状況」や「成長の様子」)

- (1) 道徳的諸価値の理解(価値理解、人間理解、他者理解)
- (2) 自己を見つめる
- (3) 物事を多面的・多角的に考える
- (4) 自己の生き方についての考え
- (5) 授業への関心・意欲・態度
- (6) 学習課題に対する思考・判断・表現

#### ◇評価方法

学習態度の観察、質問紙等への記述内容、発言内容 など

\*具体的かつ継続的に実態の把握に努めることが大切

私も今年は、さらに児童理解を深め、児童の実態をしっかり把握して授業をしていこうと思っています。評価についても工夫しながらやっていきたいと思っています。

次号は、評価の仕方、評価例なども紹介できたらと思っています。



公開授業は授業のみ  
模範授業は協議会あり

#### 《今年度の指導教諭 模範授業・公開授業に日程》

参加申し込みは、副校長先生にお願いします。

平成29年6月7日(水) 13:30【市教研と共催 公開授業】

平成29年9月5日(火) 13:40【初任者研修と共催 模範授業】

平成29年10月20日(金) 13:40【公開授業】

平成29年11月27日(月) 13:20【道徳推進委員会と共催 模範授業】

平成30年1月23日(火) 13:40【10年次研と共催 模範授業】

# 道徳ことはじめ



第10号

小金井市立東小学校 指導教諭 田上由紀子

今回のテーマ①は、「**評価をどのように行えばいいか**」についてです！

評価を日頃の道徳の授業の中でどのようにやっていけばいいのでしょうか？



前号の「道徳科の評価の目的」「評価の基本方針」を復習してから、考えていきましょう。

## 道徳科の評価の目的

授業のねらいに即して、児童の「学習状況」や「成長の様子」を把握し、それを児童に確かめさせたり、それをもとに教師自らの指導を評価したりして、結果的に指導方法の改善に努めることが目的である。

### ◇評価の基本方針

- ・ 数値による評価は行わず、記述式であること。
- ・ 相対評価はせず、個人内評価であること。
- ・ 個々の内容項目ごとの評価ではないこと。



上記の下線部分を考えても、まずは継続的に児童の実態を把握することが一番重要になってきます。また、評価は記述式であることから、具体的に把握していないと評価するのは難しいことが分かります。

28年度の通知表は3学期共に所見の中で、一人一人の道徳の時間の学習状況を書いてみました。毎学期となるとかなり苦戦しました。そこで感じたことが3つあります。

1つは、ねらいをしっかりとって授業をしないと、授業が悪戦苦闘になり、評価どころの問題ではなくなってしまうことがありました。

2つ目は、振り返りでのワークシートをファイリングしておくとても有効です。しかし、毎時間書かせることができないこともありました。(→道徳ノートの活用が効果的 (別掲))

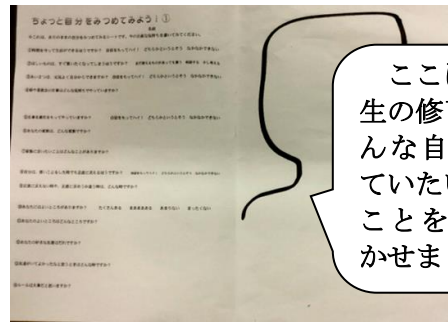
3つ目は、児童の実態をしっかりとつかむこと。児童の実態をつかむことは評価することと同じですが、授業をする上でも実態をつかんでいると、展開の仕方を考える上でとても有効です。



児童の実態をつかむために、どのようなことをしたらよいか考えてみましょう。

ここでは、昨年度の反省を踏まえ、実践していることを紹介します。年間指導計画を見て、1学期に行う「内容項目」について、アンケートを下記のようにとってみました。

☆これは、ありのままの自分を見つめてみるシートです。今の正直な気持ちを書いてください。  
 ①時間を守って生活できるほうですか？  
 自信をもってハイ！ どちらかというとなかなかできない  
 …④係や委員会の仕事はどんな気持ちでやっていますか？（記述させるスペース）



ここには、5年生の修了式に「こんな自分になっていたいたい」ということを自由に書かせました。

**\*これは、あくまでも一人一人の実態把握です！ 道徳性の評価とイコールではありません。**

道徳的諸価値の理解の価値理解、人間理解に関する実態把握です。あくまでもアンケートであって、自分に甘い子や厳しい子がいるので、目安としてみるものになります。記述などの中から、児童の気持ちが把握しやすいです。1学期に授業で扱う内容項目9つに関するもの、それに関する記述で14問になりました。これを名簿等を活用して一覧にしておくと、授業を作る上でも、とても役に立ちます。

このアンケートをもとに、授業で意図的指名を行ったり、児童の発言や表情に注目したりすることで、児童の道徳的諸価値の理解の把握に生かすことができます。

**振り返りのワークシートや道徳ノートの活用も評価に有効です！**



道徳の授業があった日に道徳ノートの宿題を出しています。私が使っている道徳ノートは、1回分が5行程度の罫線が書かれた枠の中に、その日の道徳の授業について思ったこと、感じたことを書かせています。その日の教材について書いてあったり、主題に対して思ったことが書いてあったり、授業の時の自分が発表した時の気持ちが書いてあったりと、また児童の違う一面が見られます。評価するにあたって、有効であると思います。子供の“素”の思いが書いてあることもあります。



では、どのように評価し、指導要録に記入していけばよいか、参考文例を見てみましょう。

◇評価の視点（「学習状況」や「成長の様子」）

(1) 道徳的諸価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）

【授業での評価・・・1年生 A節度・節制「かぼちゃのつる」】

・まわりの人がどんな気持ちで注意をしているか、友達の考えを聞いて、「そうか」とつぶやいた。自分の考えを広げ、価値の理解を深めることができた。

➡指導要録等の記入例

・友達の考えに頷いたり、つぶやいたりする姿が多くなり、価値についての理解を深められるようになった。

(2) 自己を見つめる

【授業での評価・・・5年生 B友情・信頼「友のしょうぞう画」】

・「友達の気持ちを深く考えないで（たぶん、こうだろう）と勝手に思ってしまうところがある。」と主人公に自我関与して考えることができた。

➡指導要録等の記入例

・登場人物に自我関与して、自分の関わりで考え、自分自身の今までの行動について振り返り、自己を見つめることができた。

(3) 物事を多面的・多角的に考える

【授業での評価・・・5年生 A正直 誠実「手品師」】

・手品師が友達の電話が来て、「大劇場に行くか」「男の子との約束を守るか」で迷っている場面で、手品師は、男の子との約束を守ると考えたが、友達の「夢だった大劇場に行く」という意見にも耳

を傾け、真剣に考えていた。

■指導要録等の記入例

- ・同じできごとに対し、その感じ方や受け止め方が人によって違うことに気付くなど、多面的・多角的に考えるよさを感じていた。

(4) 自己の生き方についての考え

【授業での評価・・・3年生 C家族愛、家庭生活の充実「ブラッドレーの請求書」】

- ・今までは家のお手伝いを面倒だと思ってしていたが、これからは大好きな家族のためを思ってお手伝いをしていきたい」と自己の生き方についての考えを深めていた。

■指導要録等の記入例

- ・判断の根拠は人によって違うことを知り、自律的に生きることの大事さに気づき始めてきた。